

2009 年度 後期

レポ ー ト 課 題

科 目 名	財政学特論 B	担当教員	馬場 義久
レポート課題	講義に関連するテーマを任意に一つ設定し、それについて論述せよ。		
制限枚数	なし		
提出締切	事務所提出： 1月22日(金)		
備 考	横書き。パソコンを使用し、印刷すること。		

2009 年度 後期

レポ ー ト 課 題

科 目 名	金融論特論 B	担当教員	酒井良清
レポート課題	講義で解説した章に対応する演習問題の解答をレポートの形で提出すること。		
制限枚数	解答の内容が十分であれば、特に指定しない。		
提出締切	A. 経研事務所提出	1月22日 締切	
	B. 教場での提出	1月22日の授業時間	
備 考	原則として1月22日の講義終了時にレポートを受け取る。 その後、当日であれば経研事務所に提出しても可。		

2009 年度 後期

レポ ー ト 課 題

科 目 名	開発経済論基礎研究指導 B / 開発経済論基礎演習 B	担当教員	深川由起子
レポート課題	<p>次の2つのうちから1つを選択し、授業時の紹介文献などを参考にしながら、論じなさい。</p> <p>(1) 経済統合は経済開発に役立つといえるか。役立つようにするためにはどのような統合の方法が望ましいといわれるのか、それは何故か。理論と実証の両側面から論じなさい。</p> <p>(2) 直接投資、とりわけ巨大多国籍企業は発展途上国の経済開発にどのような影響を持つと考えられてきたか。メリットとデメリットについて一般論を整理せよ。その上で、デメリット最小化を理由に途上国がしばしば取る規制や政府介入とこれによる投資家との摩擦にはどういったものがあるか、例を挙げた上で望ましい政策を論じよ。</p>		
制限枚数	A4 40字×35行×15枚程度、参考文献・図表込み。		
提出締切	A. 経研事務所提出	1月22日 締切	

2009 年度 後期

レポ ー ト 課 題

科 目 名	開発経済論応用研究指導 B / 開発経済論応用演習 B	担当教員	深川由起子
レポート課題	<p>次の2つのうちから1つを選択して論じなさい。</p> <p>・1980年代に世銀が試みた“成長志向型構造調整”は成否が分かれた。以下を参考に調整ローンの意図を整理した後、成功した国とそうでなかった国との差は何故、現れたのか、論拠を挙げて論じなさい。 Corbo, Vittorio; Fischer, Stanley; <i>Adjustment programs and Bank support : rationale and main results</i>, World Bank, Policy Research Working Paper (WPS) No.582. Corbo, Vittorio; Rojas, Patricio, <i>World Bank-supported adjustment programs : country performance and effectiveness</i>, (the same above) No. 623.</p> <p>・以下を参考に金融・為替管理の自由化・規制緩和順序と危機発生の間にはどのような関係があったか、東アジアをケースにとって論じなさい。 Kaminsky, Graciela.L, and Reinhart, Carmen, M., “The Twin Crisis: The Cause of Banking and Balance-of-Payment Problems”, <i>American Economic Review</i>, December, 1998. McKinnon, Ronald I. and Pill Huw “Credible Liberalizations and International Capital Flows: The Overborrowing Syndrome” in Takatoshi Ito and Anne O.Krueger eds., <i>Financial Deregulation and Integration in East Asia</i>, University of Chicago Press, 1996.</p>		
制限枚数	A4 40 字 × 35 行 × 15 枚程度、参考文献・図表込み。		
提出締切	A. 経研事務所提出	1月22日 締切	

2009 年度 後期

レポ ー ト 課 題

科 目 名	レポート対象科目一覧	各担当教員
	国際政治経済学総合演習 B(修士)	石井 安憲 ほか
	基礎経済理論研究総合演習 B	船木 由喜彦 ほか
	応用経済理論研究総合演習 B	石井 安憲 ほか
レポート課題	<p>修士課程1年生：修士論文作成を念頭に置きつつ現在取り組んでいる研究テーマについての先行研究のサーベイ（重要先行研究論文の紹介と問題点の検討でも可）または自身の研究成果についてとりまとめること。</p> <p>修士課程2年生以上：後期に報告した修士論文計画についての報告レジュメ、研究計画書、および 修士論文の研究成果についてのとりまとめ。（3つをセットで提出のこと）</p> <p>博士後期課程学生：報告レジュメと論文（可能なら） ただし、基礎経済理論研究総合演習 B（船木他）履修者は担当教員から送付されたメールの指示に従うこと。</p>	
制限枚数	特に枚数制限は定めない。ただし以下の書式を守ること。 A4 横書き。ワープロ可。	
提出締切	事務所提出：2010年1月23日（土）12:00 締切	

2009 年度 後期

レポ ー ト 課 題

科 目 名	日本経済論	担当教員	大来 洋一
レポート課題	<p>講義でとりあげたテーマで、独自の見解を含む論文</p> <p>講義で触れた文献、あるいは講義の内容に密接に関係がある文献を複数(できれば4点以上)とりあげて、サーベイ論文(文献の展望)の形にまとめたもの。一つのテーマに統一し、自分の見解を示すこと。</p> <p>以上の 、または のどちらかを選択すること。</p>		
制限枚数	40字×36行で、8～30頁(だいたい目安でこれ以上長くても短くてもよい。あまり長かったり、短かったりすれば、採点の際の「心証」に影響するかもしれない。)		
提出締切	経研事務所提出	1月21日 締切	

2009 年度 後期

レポ ー ト 課 題

科 目 名	マクロ経済学(英語)	担当教員	篠塚 友一
レポート課題	講義で配布済みの Problem Set 1～3の解答を提出すること。		
制限枚数	ナシ		
提出締切	経研事務所提出	1月22日(金)	